

## 【神奈川区】令和7年第2回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和7年6月11日 10時48分～11時58分
場 所	神奈川区役所 本館5階大会議室
出席者	<p>【座長】田中 紳一 議員          【議員：4名】藤代 哲夫 議員、小松 範昭 議員、          宇佐美 さやか議員、竹内 康洋 議員          【神奈川区：24名】鈴木 茂久 区長、小林 悅夫 副区長、伊倉 久美子          福祉保健センター長、茨 志麻 福祉保健センター担当部長、小野 範子 福          祉保健センター医務担当部長、山下 隆幸 神奈川土木事務所長、城田 裕          司 災害対策担当部長 ほか関係職員</p>
議 題	<p>1 令和7年度 神奈川区運営方針について          2 令和7年度 神奈川区自主企画事業について</p>
発 言 の 要 旨	<p>【議題1、2】          宇佐美議員 10頁「高齢者支援事業」の「(2)認知症高齢者支援事業」で          「介護者のための心の相談室」を5月にスタートしたということだが、何人          の方が相談に来られたのか、また相談の内容はどのようなものだったのか。            浅野高齢・障害支援課長 5月から1回50分の枠を2枠の設定で開始しま          して、実際に2人の方が相談にお越しいただきました。相談の内容としまし          ては、現在受けている介護サービスの種類・内容や、医療機関を紹介して欲          しいといった相談でした。            宇佐美議員 それほど深刻な内容ではなかったということか。            浅野高齢・障害支援課長 5月のケースについては、そこまでの深刻な内容          ではなかったという認識です。また、第2回が6月25日にありますので、          どのような御相談でこられているのか、介護者の方が抱える不安などを解消          できるよう努めてまいります。</p>

宇佐美議員 年10回とあるが、毎月行うという認識でいいか。

浅野高齢・障害支援課長 5月から開始しまして、毎月行う予定ですが、4月と11月は開催しないため、年10回としております。

宇佐美議員 困っている方がたくさんおられるので、周知をしていただきたい。深刻な方が相談に来られるようなところにしていただきたい。

浅野高齢・障害支援課長 区民の皆様に広く知っていただくために、区ホームページでの掲載や、毎月の広報よこはま神奈川区版でもお知らせしています。今後も本事業を幅広く周知していきます。

宇佐美議員 引き続きお願いしたい。

次に、34頁「地域防災力向上事業」について、横浜市地震防災戦略が改定されたが、集合住宅の対策について、今回の資料には記載されていないが、集合住宅のトイレは、地震が起きたときには使えなくなることや水の備蓄その他必要なものについて、集合住宅にお住まいの方に周知していただきたい。前回もいったが、他区では集合住宅向けの防災対策について、広報よこはま区版で紙面を割き広報していたが、神奈川区としては周知しないのか。

宍戸総務課長 前回、ご指摘をいただきまして、広報よこはま区版令和6年12月号の「かめ太郎とまな防災」というコーナーで、「マンション防災について考えましょう」と啓発を行いました。また、「地域防災力の強化（自助の推進）」のひとつとして、「防災アドバイザー派遣事業」を行っておりますが、こちらは自治会町内会のほか、マンションの管理組合等も対象としております。防災アドバイザーの建築士の視点から、ご自宅の減災や防災対策についてアドバイスをいただく事業ですが、戸建てだけではなく、集合住宅にお住いの方からも要望をいただいて、昨年度は3回講演会を行っています。建築局とNPO法人等マンション関係団体が協働で、交流会を月に1回、神奈川地区センターで行っております。先日、6月1日にも防災アドバイザー講演会のご説明にうかがいました。

宇佐美議員　区民の方に話を伺っていると、トイレパックを用意していないという方が多くいる。周知するためには、広報を繰り返していく必要があると思うがどうか。

宍戸総務課長　令和5年度の区民意識調査でも、トイレパックを常備しているという方は34.7%でした。また、昨年度、総務局が行いました横浜市民の防災減災に関するアンケートでは、神奈川区は、トイレパックを備蓄していないと回答した方が45.4%と、備蓄されていない方がかなり多いと感じております。様々なイベントや機会を捉えまして、啓発していきたいと考えています。

宇佐美議員　引き続き周知していただきたい。

36頁「(6)災害時のペット対策」にあるペット対策用スターターキットの配布とあるが、どのようなものか。

梅田生活衛生課長　今回、神奈川区で希望する拠点に配布していきたい物品として、ペット対策用の資材が入っているものになります。災害対策用として、各拠点に用意されていないブルーシート、ペット用シーツ、ロープ等の人とは分けて使える物品が入っています。

宇佐美議員　外に避難させるときに必要なものが入っているのが、スターターキットということか。

梅田生活衛生課長　必要な物品は、各拠点で決めて一時飼育場所によって条件は変わるとと思いますが、今回用意したものは、中身はすべて同じで、屋外で活用できるもの、ブルーシートや立ち入り禁止とするロープなどの道具が入っています。

竹内議員　細かいことではなく、全体の認識として、区長にうかがいたい。基本目標に掲げている『笑顔でつながる「神奈川区」』とは、いい目標だと思う。

神奈川区は、利便性が高く、特に子育て世帯もそうだが、若い単身の居住者も増えている。世帯で見ると、横浜市は都市型で、若い人のみならず、死

別、離別含めて高齢者の単身世帯も多い。横浜市の昨年データでは、183万世帯のうち45%ぐらいが単身世帯であり、2世帯に1世帯程度が一人で住んでいる人ということになる。単身者へ向けたアプローチは非常に困難だと思っているが、認識していないといけない。地域性として神奈川区の現状と認識はいかがなものか。

鈴木区長 毎月、広報よこはま神奈川版に掲載していますが、神奈川区は人口約25万人、約14万世帯の方が居住されており、単身の方が増えているという認識を持っています。また、神奈川区は転出入が非常に多い区です。単身の方も多くいらっしゃいますが、長く居住している方も多くいる一方で、大学や仕事の関係などで、数年だけ居住される方等、ひとの移り変わりも激しいという状況があります。そういう方たちをどう結び付けていくか、つなげていくかが課題であると考えています。そこで、いろいろな事業にちりばめさせていただきましたが、すぐすぐかめっ子も今年度は25周年で長く続けていますが、まだまだ知らない若い世帯が多くいます。「わが町かながわマナー違反一掃作戦」は、毎年1,500人弱参加をいただいているが、若い方や大学生等の短期居住者の方とはなかなか結びつかない状況があるので、今年度は、神奈川大学や横浜国立大学にご協力を求めて、若い世代につながる事業を計画しました。また、地域防災力向上事業では、小学生を対象に「神奈川区防災デイキャンプ」を実施する等、トイレの備蓄もそうですが、いろいろな機会を捉えて、周知する事業を計画しています。自治会町内会のご協力をいただいて、効果をあげていますが、届いていない層があります。地域福祉保健計画では、『ひとりぼっちにならない』、『様々なチカラがつながり合う』まちをつくるために、どう広げていくか、自治会町内会もいろいろイベントを行っていただいているが、いろいろな機会を通じて知つてもらうよう取り組んでいきたいと思っています。

竹内議員 非常に難しい問題だと考えます。昭和と違って、人口が縮小していて、生活も変わっている。高齢者福祉や子育て情報、防災情報等どれ一つとっても、地域になかなか届かないとなると課題だと思います。様々な観点で工夫しながら、地域の方々へ届けていただきたい。

子供の参加型イベントを行うと親御さんが参加していただけるように、ペットについても、つながりをもつていて、参加者が少ないイベントに、ドッグ

ランを設置したら、ペットと一緒に参加していただく方が増えたという。ペットというキーワードがある。また、防災訓練を行っても、日曜日ぐらい休ませてくれと参加されない方もいるが、お子さんが参加されることで、楽しみながら参加していただける。子育てというキーワードでつながりができる。商店街では、まつり、納涼夜店などのイベントを行うと人が集まる。支え愛プランの理念でもあると思うが、様々な人が参加できるよう事業を実施して欲しい。

また、ペットがいる方は、ペットと一緒にいたいから、避難せず家に留まりたいという。そこで、モデルケースを作りたいので、情報提供だが、台町に新しく設立された動物専門学校がある。動物愛護センターと視察したが、モデル区となって、専門学校と協定を結んで、同行避難や同室避難を行うことを検討してはどうか。専門学校の情報は入っているか。

梅田生活衛生課長 動物取扱業というのがあり、ペット専門学校の登録申請を確認しています。ペット同行避難に関してもご協力を来ていただけるのではないかと考えています。市全体で、ペットと一緒に避難する取組を進めています。神奈川区がモデル区となることができましたら、他の区にも広がっていくだろうと希望を持っています。

竹内議員 ゼヒ、モデル区となって進めて欲しい。専門学校を例に出したが、そこだけではなく、いろいろな事例を作成して欲しい。

次に、34頁の「24 地域防災力向上事業」にある「要援護者をテーマとした実践的なモデル訓練の実施」とあるが、「要援護者」とはどういう方か。

浅野高齢・障害支援課長 今回、9月6日の土曜日に中丸小学校地域防災拠点と福祉避難所の片倉三枚地域ケアプラザが連携した訓練を行います。訓練につきましては、二部構成の訓練で、第一部として地域防災拠点から区本部への連絡方法の確認や区医療調整班の保健活動グループによる要援護者の確認を行います。第二部として、要援護者を地域防災拠点から福祉避難所まで移動・移送し、福祉避難所における要援護者の受け入れを行います。詳細につきましてはこれからとなりますが、午後の時間帯で、3～4時間を予定しています。

竹内議員 地域で把握されている災害時要援護者名簿に名前のある方が対象なのか。

浅野高齢・障害支援課長 要援護の方、ご本人を対象とした訓練ではなく、要援護の方が避難してきたことを仮定した訓練としています。

竹内議員 この訓練でいう「要援護者」というのは、要介護者、障害をお持ちの方、妊産婦等いろいろな方がいると思うが、どういう想定か。

浅野高齢・障害支援課長 今回、モデルとしてどういうケースにするか、検討中ですが、例えば、身体に障害のある車いすの方が避難して来られて、地域防災拠点では生活が困難となったことで福祉避難所へ移送するなど、いくつかのケースを考えています。

藤代議員 いろいろな話が出ましたが、つながっていくのは、21頁の「地域力アップ推進事業」の「(2) 自治会町内会 ICT 支援事業」について、ICT 支援事業ではないかと考える。自治会町内会の役割をどうしていくか、同時進行で課題としてある。勉強会や体験会、アドバイザーの派遣などを行っているようだが、どういう成果がでているのか、神奈川区のいくつの自治会町内会で行ったのか。

佐藤区政推進課長 今の状況としましては、各自治会でHPを作ったり、インスタグラムを行っている自治会があつたり、ツイッターXで発信している自治会などいくつかあります。昨年度につきましては、公式LINEアカウントの講座を開催し、それを利用した情報発信を行ったらどうかと、アドバイザー派遣をしました。派遣した3つの団体で公式LINEアカウントを新たに作成したという成果があります。今年度は、自治会町内会がどういう発信をしていきたいのか、課題に合わせた、デジタルツールの紹介を行う講座を実施します。インスタグラム、フェイスブック等、自治会の要望に合わせたアドバイザーの派遣を実施していきます。

藤代議員 情報発信と情報共有を行わなければいけないが、課題は多い。解決策の一つは、ICTだと思う。一方通行ではいけない、情報発信して共有

していく、ツールの一つであるが、地域課題の中で掘り下げてＩＣＴをどう使っていくのか。使う人も地域の人も理解してもらわなければならない。丁寧に行う必要がある。最終的に、情報共有し課題を整理して、地域課題の解決につなげるという考え方を持っておく必要がある。アドバイザー派遣ということだが、これは地域の方がＳＮＳアカウントを開設するためのアドバイザー派遣ということか。

佐藤区政推進課長 そのとおりです。公式LINEアカウントを作りたい、フェイスブックを開設してみたい、それをどう使っていくかのアドバイザーとなります。

藤代議員 地域課題をしっかりと情報共有しながら、内容が濃い取組をお願いしたい。

次に、24頁の「神奈川区制100周年事業」について、令和9年に向けて、準備会を5月に設置し、実行委員会を11月に設定する予定とのことなので、是非進めていただきたい。3頁の区局連携「GREEN×EXPO 2027開催に向けた取組」にもあるが、実行委員会のみなさんと共有し、GREEN×EXPO 2027と区制100周年の連携事業等も検討して欲しい。神奈川区は、業種や団体を問わず、いろんなところと連携できる部分がある。連携事業・連携した取組、公民連携という考え方もあるが、区長はどのように考えているのか。

鈴木区長 我々としても「GREEN×EXPO 2027」を成功させるために、機運醸成に取り組んでいます。同じ年に区制100周年を迎えるため、準備会を立ち上げたところですが、うまく相乗効果をもって高められるように、緑の街羽沢・菅田の方々や、公園愛護会の活動、環境推進員の活動などを含めて、うまく連携し、盛り上げていきたいと考えています。ご協力をよろしくお願いします。

宇佐美議員 14頁「かながわ安心子育て支援事業」の「(1)児童虐待防止対策事業」についてだが、保育所と懇談した時に、虐待されている事例について、保育士の方が園児から話を聴いて、区役所へ相談すると、それは問題なので警察に電話してくださいと言われ、警察に電話しても何も起きていない

	<p>いから何もできないと言われる。もっと、区役所や児童相談所、警察が連携して欲しいという要望を聞く。虐待は、保育所で見つかるケースも多いので、保育士たちとの懇談もやって欲しい。子育てにおいて孤独になっている方多く、他に相談するところがなく、登園した時に保育士と長時間話し込む方等がいて、保育士の業務が増えている。子育てで孤独になっている人がいないか、保育所の業務負担も気にかけて、区役所や児童相談所、警察が連携して欲しい。</p> <p>鈴木こども家庭支援課長 保育園からも相談を受けています。こちらの対応が丁寧ではなくてご意見をいただいたのではないかと思います。警察・学校・保育園・幼稚園を含めた代表者会議を実施しています。個別の案件があった場合、案件により職員が保育園に出向いて、話をうかがっていますので、これからも保育士の先生方の相談等を丁寧にお伺いして連携していきたい。</p>
備 考	